

熊野の洋をあさことにみる

花

文三 壽 夢 子

ゆたかなる春の日をうけゆらさるる、
花をし見れば物思なし。
薄紅の衣の袖をゆるかして、

四月の空に花さきはこる。

春の日の恵ゆたかに身に浴びて、

花の大野に我たすめり。

君まさぬ春の淋しさ皆人は、

我を残して花に集る。

花も見てほこりの中に亂れ舞ふ、

人の心のうたてくもあるか。

花の春巻のよみたかければ、

愈々我の籠居をする。

花時の電車のきしり魔の如く、

籠居をする我を襲ふよ。

海ならで慰み得ずと友去りし、

山の出湯につくくどをり。

玉の如き朝の出湯にひたりつゝ、

爲すこともなきこの一日かな。

夕月夜花ほの白き道行けば、

故も知られぬ湧く憂かな。

朧月夢より淡く照る下に

花ほの白うき出でにけり。

會員諸姉へ

今般當文科會内に振替口座を設置致し申候間茲
今會費御拂込みの節は何卒御利用被下度番號は
左の通りに御座候

東京四二五四二番

本郷區湯島

東京女子高等師範學校内

文科學術談話會

編輯室より

あはたゞしい三學期は、もう終りを告げやうとし
て居ります。止むを得ず本紙の發行の大變後まし
た事については、ふかく御わび致さなければならな
い次第で御座います。しかし大變後れはいたしまし
たものゝ、校長先生始め諸先生の御盡力、又其の外
皆様の御熱心により、こゝに自然と共に美しい花を
咲かせる事が出ました事を深く感謝いたします。

元來我々文科生として最も振はせなければならな
いこの會誌が、やゝもしては貧弱であるとか、つま
らないとかの非難を受けましたのをほんとに悲しく
存じました。これは一方には編輯者の努力の足りな
いどころも御座いませう。しかし又、會員皆様があま
りにこの會を小さく御覧になり、あまりに窮屈なも
のと思召してゐるためではなからうかと存じます。
冬の様を緊縮した時はほんとうに何事もする事が出
来ませんやうに、あまりに収縮した範圍では如何な
る活動も出来ません。この會はもつともつと大きな
意味のもので御座います。

少なくとも我々文科として國語科に關するものは
勿論、外國語、歴史、地理、倫理、教育、また
範圍はこれで止まらないでせう。いやしくも眞の人
間であるためには一面のみに明るい馬車馬的のもの
ではなりません。一小局部にのみたゞずんでゐて
ては眞の人間たる生は得られるものでなく、我々の
生きる世界はもつと深く且つ廣いと存じます。
そしてもつと自由なものだと存じます。其の自
由にして深く廣いところに這入り得て、始めて慥か
な生の基礎を作り得たものではないかと存じます。
皆様もどうかもつと御自由に、そして當會に
對する御考へを御ひろめになつて、次回はもつと
御ふるひ下さらん事を希望致す次第で御座い
ます。このためには卒業生の諸姉もどうか、せめて
會誌にでも御投稿下さいまして、相共々に文科學術
談話會として、はづかしからぬものを作りあげやう
では御座いませぬか。世界は今や思想の革命期に
のぞんで居ります。本會も大いにこの時期、この趨
勢に伴つて一大改革をして見やうでは御座いませぬ
か。